バリュー・シフトの時代に向けて

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会　会長
斎藤　保（株式会社 IHI　相談役）

6月19日に開催された日本VE協会の総会及び理事会において、会長として2期目の協会運営に与ることになりました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

1期目就任の際に皆様にお伝えしたことは、私たちがかつて遭遇したことのない社会の変革期にいることを認識し、超スマート社会を実現していく「Society 5.0」の実現や、国際社会の共通課題である持続可能な開発目標「Sustainable Development Goals（SDGs）」の達成に向けて、日本の競争力を高めていかなければならないということでした。

社会問題を解決するためにVEの考え方が大いに役立つことは疑いのないところでしたが、社会（顧客・使用者）のより高い次元にある潜在的な要望・課題の掘り起こしや、第三次産業を含めたバリューチェーン全体への普及にはいまだ変革の余地があり、そのためにもVEは新しいステージに進む必要があると考えてきました。

そこで、本会のバリューデザイン・ラボにおける研究活動や、一般社団法人日本システムデザイン学会との連携を進めてきました。また、学校改革を進めておられる東京・千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長（当時）との対談では、教育の世界でも「目的思考」が有効であることが分かり、VEの適用範囲は広く、かつ制約がないことを確信しました。

さて、今年度に入り新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、事業活動のみならず日常生活においても想定外の様々な変革を迫られました。

マスクの着用が日常化したことでグローバルに入手困難となり、医療現場では防護具や医療機器も不足するようになりました。そのような状況の中、極めて速いスピードで「バリュー・シフト（価値観の転換）」がなされた事実を見ることができます。

マスクは価格が高騰し、品質の低下が散見されましたが、その後は異業種の素早い投資判断により、廉価品とは差別化した商品が少し高い価格で供給されるようになりました。また、再使用できるマスクが一般化し、使用者は取得コストが高くてもライフサイクルでは使い捨てより安いという判断をするようになったほか、機能面では「見た目」「快適さ・涼しさ」といった二次機能の期待も高まりました。医療現場で不足した人工呼吸器は、3Dプリンターの製作モデルを共有することで、サプライチェーンが寸断された中でも現地で製作可能となり、コストは1／100にもなるという報告がありました。

これら一連の出来事を、基本機能は同じでもF／Cの在り方が急激に変化した事例と考えると、他業種においても自分事として捉えることができるように思います。ウィズコロナ時代に新しい社会的・経済的価値を生み出し続けていくには、社会の潜在的で不連続なF／Cへの期待を反映した「価値設計（Value Design）」を、前述したような連携と適用拡大によって加速させていかなければいけないと考えています。

本会では、コロナ禍を変革のチャンスと捉え、以下の活動方針を掲げて各種研究会・部会等での議論をWeb会議等で進めております。

① Sustainable Value Design
～持続可能な社会づくりへの貢献

② Service Value Design
～モノとサービスの境界を超えるイノベーション

③ Future Value Design
～未来を先取りする価値の創造

リアルな大会、セミナー等を開催できず、ご不便をおかけしておりますが、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りたく何卒よろしくお願い致します。